

緑鳳学会第14回大会

5氏が研究の成果を発表

11月5日、神田キャンパスで専修大学緑鳳学会(矢邊學會長＝国士館大学名誉教授)第14回大会が開催され、会員ら35人が出席し、研究発表会と総会・懇親会が行われた。

研究発表会では吳大忠さん(大学院経済学研究科博士後期課程)が「市場経済化と中国における貧困・格差の問題」、大和田智文さん(同文学研究科博士後期課程)が「社会的アイデンティティのあり方と若者行動評価および行動理解度との関連性について」、矢邊均東日本国際大学助教授が「脱国家的視点からの平和構築」、戸塚茂雄青森大学教授が「過剰富裕化論」、長嶋義貴聖徳大学教授が「会社法制の現代化の意義と背景について」と題してそれぞれ講演を行った。



講演する吳大忠さん

引き続き聞かれた総会・懇親会には、日高義博学長ほか本学役員も出席し、議事と意見交換が行われた。

福井鳳会

合気道部夏季合宿を歓迎

福井鳳会(久保善央会長=昭42経済)は8月6日、体育会合気道部の夏季合宿が福井県大野市で初めて開催されたことを歓迎、同市の扇屋旅館で懇親会を開いた。

合気道部からは渋谷武夫顧問(商学部教授)、島崎博監督、中野郁雄氏(昭44経営)はじめ学生約20人が出席。福井鳳会からは、岩端猛志副会長(昭46法)ほか会員6人が参加した。

司会は同部OBで大野市在住の藤堂規行氏(昭56経済)が行い、小野匠主将(ネット情報4)の音頭で全員が校歌斉唱した。

校友会グリーンカップゴルフ大会

優勝は野平氏（個人）と甘竹氏（シニア）

日本ユニセフへ賛助金を寄付

恒例の「第21回校友会グリーンカップゴルフ大会」が10月28日、東京の小金井カントリー倶楽部で行われた。澄み切った秋空の下、遠く北海道や大阪からも校友が駆けつけ、70歳以上の17人を含め、92人が参加した。

競技は伊藤良雄大会実行委員長（校友会副会長）の開会あいさつ、蒲田重勝競技委員長（同体育振興部長）の競技説明の後スタート、和気あいあいの中にも熱い戦いが繰り上げられた。

競技終了後に懇親会が行われ、甘竹秀雄校友会長があいさつ、三島英雄専修大学専務理事の音頭で乾杯、プレー談義に花が咲いた。

表彰式に移り、個人優勝の野平孝雄氏（昭41商業）、シニアの部の甘竹秀雄氏（昭33商経）、ベストグロス賞の野平浩司氏（平4商業）、団体戦の卓球部緑生会に各賞が贈られた。

なお、チャリティー協賛金8万4000円は、日本ユニセフ協会に寄付された。

※大会の詳細は、校友会誌「Adonis35号」および校友会ホームページをご覧ください。



《専大校友を訪ねて》

「アキバ」秋葉原を世界に情報発信

—千代田区議・「あきば通」代表 小林孝也さん(昭53経済)

秋葉原駅前再開発で著しい変貌を遂げた「アキバ」の街をトレードマークの自転車で駆け回り、「自分たちに、次世代にも責任をもてる社会を」という視点で街づくりを進める。

衆議院議員秘書から会社員を経て、平成3年、36歳で初当選。以後3期連続トップ当選を果たす。当初から再開発計画に携わり、地元住民、商店街、事業者の間で調整を行ってきた実績と、斬新なアイデアで注目を集めている。

「ハード(街)が出来てもソフト(情報)がなければ町に魂が入らない。人が集まっても喜んでもらえない」と、4年前にフリーペーパー『あきば通』を刊行。さらにアキバ好きな人たちが参加する「おそうじ志隊(したい)」を企画。毎回配られるアニメ「外神田あみたん」のオリジナルグッズが好評だ。

現在は「アキバでなければ楽しめない、新しいオンリーワンを作ろう」と複数のメディアを統合した、情報発信を計画している。

在学中、吉家清次ゼミに所属。「何をやっても『君らしい』と認めてくれ、『積極的に学び、遊べ』がモットーでした」。一般教養で政治学を学んだ大嶽秀夫・現京大教授とは、卒業後の講演会で再会し、地方自治の講演会に呼ばれるなど、今でも親交がある。「いい先生に出会ったら必ず質問に行くこと。先方も覚えてくれます。『本物』に会うことで自分の足りない部分分かり、成長できます」。ローバースカウト同好会の主将も務めた。(現在は千代田第6団・団委員長)。「基本理念は、『気づき、考え、実行する』。自然の中でどう行動するか、どう備えるか。社会生活に通じます」。

「隼より始めよ」が座右の銘。モットーは「単純、明解、即実行し、継続する」。環境の話、ソフトカーの構想、専大と千代田区とのコラボレーションなど、プランを次々に披露してくれた。進化するアキバ同様、さまざまなプロデューサーとしての活躍が期待される。



最新の「あきば通」